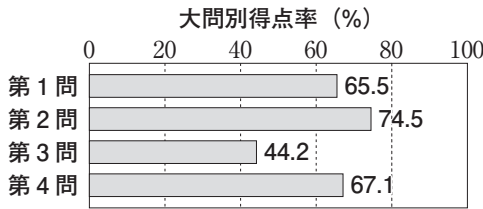
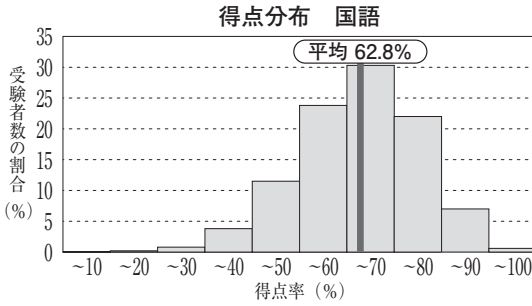


今回の結果をから、受験本番に向けて、必要なことを確認し、直前学習に取り組もう！

I. 全体講評

センター試験がいよいよ目前に迫ってきた。「最終12月センター試験本番レベル模試」の受験学年の平均点は一二五・六点と、よい結果となった。今までの勉強の成果が出てきたようだ。現代文については前回六割程度であった得点率が、評論・小説ともさらに伸ばすことが出来てい



る。小説は七割を超える好結果であった。古典分野も漢文は、七割に迫る結果であり、句法や重要漢字などの漢文知識が習得され、実戦問題での対応ができるようになってきた。残念ながら古文の伸びは小さかったが、努力を続けている諸君なら、残りの時間で成果が出てくるはずだ。実戦演習で読解のスピード、設問への対応力を上げながら、身に付いていなかった知識事項(文法事項・古文単語)を確認することを繰り返し、合格点が取れるよう、頑張ってもらいたい。

今回、よい結果を出せた諸君でも、不十分なところはあるだろう。この一年の「センター試験本番レベル模試」で出来なかったところを再確認しよう。今ならきちんと説明できるところも多いはずだが、あやふやなところはきつとあるはずだ。そういったところを、きちんとつぶしておこう。残念ながら今回、力を出しきれなかった諸君も、照準を本番に合わせて粘り強く頑張ろう。間違えた問題と苦手意識のある分野について、どこでどう間違えたのかを丁寧に振り返ろう。

現代文では、漢字や語句などで失点しては何にもならない。基礎問題では確実に点を取るのだということを強く意識して演習を重ねよう。漢字などは時間をあえてとるのでなく、「勉強と勉強の合間の気分転換にする」などの工夫をして、少し

ずつでも確認しよう。古典についても、演習で明らかになった身に付いていない基礎事項(単語・文法・漢字・句法など)を覚えながら演習を続けよう。基礎事項を覚えることなく、やみくもに、問題演習をしてもなかなか成果にはつながらない。

受験生は、学習密度をいっそう高め、集中力の強化をはかってほしい。そして、本番で実力が十分発揮できる態勢作りをしていこう。集中力を高めるには、線を引いたりメモを取ったり図式化したりする等の作業も有効だ。自分なりの方法で、最後まで気持ちを強くもって直前学習に粘り強く取り組もう。基礎事項・解法の確認とともに、時間配分や解答順序も意識し、国語全体で得点を最大限にするにはどうすればよいかを意識しよう。

新高3・新高2生は、受験生の今の状況を知るとともに、この模試で課題を見つけ、本格的な国語の勉強を開始しよう。

II. 大問別分析

第1問 (評論)

傍線部の趣旨に即した具体例を思い浮かべてみる習慣をつけておこう。

今回は、やや難解な内容の文章だったが、六五・五%という予想以上に高い得点率となり、自

信を持って本番に臨むことの出来る結果になった。現在のセンター試験に変わる共通試験の傾向に即して、図表の読み取りも含んだ問題を留意(問3)したが、まずまずの成績を示している。

設問ごとの結果では、問4が五割を下回り、最低の正答率である。また、問2、問6の正答率もやや低い結果となっている。

詳しくみると、まず問1の漢字問題の(ホ)は「投影」と同じ「影」を用いるものを選ぶ問題だが、正答率は七一・三%で、誤答④の「映」を選んだ受験者も多かった。

問2はやや難しい設問で、正答率は五〇・九%である。そもそも主体の一部としてあったはずの身体が、医療現場などでテクノロジーの対象となると、物質と同じく客体(自然物)となってしまうということ、③が正解だが、誤答では、逆に自然から離れるとした①が多かった。

問3は対話形式の設問で、正答率は六七・四%、誤答の多かった④では、生徒Cの意見を誤りと考えたようだが、自然と価値の双方向的な関係に注意したい。

問4の正答率は四三・三%と低調だった。傍線の具体例を選ぶ設問だが、こうした形式に不慣れだったせいも、誤答の④を選んだ者も多かった。「里山」自体、純粋な自然環境ではなく人間文化との接点にあることに気づいてはなかった。

問6では、iが五〇・六%、iiは六六・八%の正答率だった。iでは①の誤答が多かった。人間の臓器や生殖器官や配偶子は無前提的に自然として考えられがちだが、医療(人間のテクノロジー)

を通じて理解され、対象化されるようになって、はじめて自然と見なされるのだ。

第2問(小説)

おおむね好調。自信を持って本番に臨もう！

戦前の小説からの出題であったが、得点率は七四・五%と好調であった。センター試験本番に向けて良い準備ができていのではないかと。

設問ごとにみていこう。問1の「語句の意味」の問題は、(ア)「くったくの無い」、(イ)「押しただいていた」が共に四〇%台の正答率で、やや低調だった。漢字も含め、知らない言葉、表現は直前期の今こそ貪欲に覚えよう。

問2は解答根拠が傍線の近くに求められるためか、正答率が八八・三%と非常に高かった。

それに対してやや正答率が低かったのが問3で、正解の②を選んだ人は六五・〇%、誤答の④を選んだ人が二〇・一%、⑤が一〇・六%だった。

問2との違いは、問われている「絹子の心情」が本文に直接的には書かれておらず、推測する必要がある点だ。飛ばし読みをしったりせず、文脈の中で登場人物の心情を丁寧に追いかけていこう。その際、文章を映像化するイメージを持つとよい。

問4の正答率は八四・三%、問5九一・四%と、共に長い選択肢であったがよくできていた。

問6は「表現に関する設問」で、二つの正解のうち、①の正答率が四九・〇%、⑥が八五・五%と差が出た。①の選択肢は本文の時系列に関する内容だったが、これは過去のセンター試験で何度も

出題されている。小説は必ずしも時間の順に書かれているわけではないことに注意したい。

本番では自信が「粘り」を生む。今回の好調を維持したまま、さらなる過去問演習を通じてより大きな自信を持って本番に臨んでほしい。

第3問(古文)

人物の立場と状況の変化を捉えよう！

男として帝に伺候した妹君(新藏人)が姉の内侍をさしおいて帝の寵愛を受ける場面である。全体の得点率は四四・二%で、選択肢を二つまでは絞れているが、最後の内容把握での取りこぼしが目立つ。選択肢の違いを吟味しよう。

問1の解釈問題は、(ア)が「うつつ」「無し」の語幹、(イ)が「品」・「めやすし」、(ウ)が「めざまし」の意味で選択肢をしばり、文脈からの判断も必要であった。(ア)は主語の異なる③への誤答が目立ち、(イ)は「めやすし」を意識しすぎている①への誤答が多かった。

問2は一文の中の単語の文法的説明の問題で、「にて」の識別ができなかった①・⑤への誤りが合計三割を超えた。動詞「過ぐ」の連体形活用語尾「る」を完了と考えたのである③が不適当な選択肢で正解である。正答率は五割で、ここは得点源としたい。

問3は挿入句の説明問題で、「ゆかし」の意味で①・④に絞ることは八割の諸君ができていた。ここは帝が男装の妹君に目をかけるようになったことを受けているので④が正解となるが、解答は誤答の①に集中した。周囲をあざむくことではな

く帝との関係に注意したい。

問4は、「かたはらいたし」が、帝の寵愛を受けて得意になる妹君への評価であることを読み取った問題で、五割の正答率であった。帝への批判とした誤答③が三割あり、やや多かった。

問5は三首の和歌についての説明問題で、詠み手を間違えた誤りは少なかつたが、帝の愛情に対する不信とした②への誤答が二五%もあった。二人の奇妙な関係について人がどう感じるのかと詠んでいる③が正答。

問6は、内容合致問題と同様に本文と照合する。正答率は三割で苦戦している。誤答で最も多かった③は、妹君が蔵人となった因果関係を説明しているが、本文では明らかではない、言い過ぎの選択肢である。

第4問 (漢文)

解答に必要な手がかりを見つけよう！

魏の公子への忠義を説く乳母の話である。全体の正答率は、六七・一%で、句法や語彙などの問題はよくできていた。読解はわかるところから手がかりを見つけて解釈することが課題である。

問1は、傍線部の漢字と置き換え可能な熟語を選ぶ問題。④の「務」は「つとム」と読んで公子を生かす責任と義務を表し、「責務」が正解となる。これは八割の正答率であった。誤答では②「労務」がやや多かったが、労働の対価ではない。⑥の「中」は「アタル」と読んで「命中」を選ぶ。正答率は九割を超えた。

問2は、空欄補充の問題で、前後の文脈から判

断する。どちらも六割以上の正答率。Iは秦にとつて良い状況、IIは悪い状況を入れるので、公子を「得る」・公子を「匿す」が入る。IIに「殺す」を入れた誤答①が二割あったが、これは秦にとつて悪い状況とは言えない。IIIは主君に背かないこと、IVは死を畏れないことで、「忠」・「勇」がそれぞれ入る。IVに「礼」を入れた①への誤りが二割もあった。組合せ問題であるから、両方に矛盾なく入る選択肢を選ぶようにしたい。

問3は、乳母が公子の行方を教えない理由を答える問題で、乳母としての道義は公子を生かすことにあるという選択肢を選ぶ。誤答④は、自分の死に方の比較ではないので不適当である。

問4は「雖モ」の意と、「公子が死セバ則チ私も死セン」と主語を補うことがポイントで、六割の正答率であった。「私も死セン」を「殺されるだろう」とした誤答②が三割もあった。

問5は、使役の句法と、断定の置き字「矣」に注意して書き下す問題である。使役については九割近くが読めていたが、「矣」は反語や限定で読んでいる①・⑤への誤答が多かった。置き字は一度整理しておくとうい。

問6は、本文全体の趣旨を問う問題で、誤答が分散した。②は主語に登場しない兄がいる、③は乳母が死んだと誤解している、④は人のあるべき姿として語っている、がそれぞれ誤りである。落ちて着いて本文と照合するようにしたい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆自分なりの戦略と計画を立てて、直前学習に取り組もう！

本番試験での得点を最大化するためには、残り少なくなった時間を、どこに、どのように使うのか、明確な戦略と計画を立てて学習に取り組むことが必要だ。この時期に新しいことに手を出しても大きな効果は望めない。授業のテキストやノート、過去のセンター試験本番レベル模試、愛用の単語集や問題集。これらをしっかり見直すことを中心に学習プランを立ててほしい。また、これまで蓄えた知識の総点検もおこう。

◎新高3生・新高2生

◆目的意識をもって学習に取り組む、厚い土台を作ろう！

「全国統一高校生テスト(受験生部門)」に引き続きこの模試を受けた生徒は、前回の結果を踏まえ、自分なりの目標と課題を設定して、受験に臨むことができただろうか。漫然と模試を受けているだけでは学力は伸びない。「受験後の復習と結果の分析」↓「次回に向けての目標・課題設定」↓「計画的課題実行」というプロセスを着実に行うことが大切だ。

また、初めてこの模試を受験した諸君、これまで国語の勉強を特にしてこなかったという諸君は、ここから、入試に向けた学習を開始しよう。

早めにスタートを切ることが志望校合格への可能性を大きくするということを銘記しよう。